

令和3年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 中島 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数)

教科に関する調査(国語, 算数)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語, 算数)の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.8	63	11.0	69
全国	9.1	65	11.2	70

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に、全国平均正答率を下回っている。 ・「読むこと」領域は、比較的正答率が高い。 ・問題形式として、記述式は全国平均正答率を上回っているが、選択式は下回っている。 ・全ての問題に対して、無回答率は平均5%以下で、全国平均無回答率をすべて下回っている。
	よってきた問題	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を用いた目的を理解する問題は正答率が高い。 ・目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題は正答率が高い。
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える問題の正答率が低い。 ・文の中における修飾と被修飾との関係を捉える問題の正答率が低い。
算数	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的には、全国平均正答率を上回っていた。 ・「図形」領域はよくできているが、「データの活用」領域が全国平均正答率をやや下回っている。 ・問題形式として、選択式及び短答式は全国平均正答率を上回っているが、記述式は下回っている。 ・ほとんどの問題に対して、無回答率は0%で、全国平均無回答率をすべて下回っている。
	よってきた問題	<ul style="list-style-type: none"> ・データを二次元の表に分類整理する問題は正答率が高い。 ・示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断する問題は正答率が高い。
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> ・二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述する問題の正答率が低い。 ・集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断する問題の正答率が低い。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・学校での学習に関する項目では、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対し、「当てはまる」や「どちらかといえば、当てはまる」の割合は全国平均を上回っている。また、他の質問項目も、全国平均と同等または上回っていた。 ・家庭での学習習慣に関する項目では、「自分で計画を立てて勉強をしていますか」に対し、「よくしている」や「ときどきしている」の割合は全国平均より高いが、「1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」に対し、30分以上の割合は全国平均を下回っている。家庭学習についての見直しが必要である。 ・生活習慣に関する項目では、「朝食を毎日食べていますか」「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日同じくらいの時刻に起きていますか」に対しては、「している」や「どちらかといえば、している」の割合は全国平均と同等である。また、「普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含みます。)をしますか」に対し、1時間以上の割合が全国平均を大きく上回っている。 ・規範意識に関する項目では、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対し、「当てはまる」や「どちらかといえば、当てはまる」の割合は全国平均を上回っている。今後も指導を継続していく。 ・地域や社会に関する項目では、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」に対し、「当てはまる」や「どちらかといえば、当てはまる」の割合は全国平均を上回っているが、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」に対しては、全国平均を下回っている。 ・自尊感情や夢、目標に関する項目では、「将来の夢や目標を持っていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対し、「当てはまる」や「どちらかといえば、当てはまる」の割合は全国平均を上回っているが、「自分には、よいところがあると思いますか」に対しては、「当てはまる」や「どちらかといえば、当てはまる」の割合は、全国平均を大きく下回っていた。学校生活の様々な場面で、自尊感情を高める手立てが必要である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・国語については、特に選択式の問題での正答率が低い。これは、学習内容の理解が曖昧であることが原因と考えられる。基礎学力の向上を図りながら、1時間1時間の授業の中で確実に学習内容を理解させるようにする。

・算数については、記述式の問題に課題があるため、「問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書く」「言葉や数、式を使って、わけや求め方を書く」等、書く活動を充実させた授業づくりに取り組む。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・各学年の学習内容を確認し、家庭学習の内容や量について全教職員で共通理解を図り、家庭学習を全校での取組としていく。また、日々の児童への指導はもちろん、家庭学習の定着においても、担任だけでなく全教職員でサポートしていく。

・ゲームの時間が長いことから、家庭と連携して、放課後の過ごし方の指導を機会をとらえて行う。

・児童や保護者を対象に「学期末アンケート」を年間3回実施して、児童の学びや生活の実態を的確に把握し、取組を深めていく。